

秋のブックツアー

図書館では、毎年5月と11月に学生ブックツアーを行っています。ブックツアーとは、学生が図書館で所蔵してほしい本を書店で選ぶイベントで、秋季は10名の学生選書委員が本を選びました。

選書した図書の一例をご紹介！

- 『接客フレーズ言いかえ事典』
- 『星を編む』
- 『死んだ山田と教室』
- 『日本の神様と神社の教科書』
- 『ははのれんあい』
- 『「だれにも言っちゃダメだよ」に従ってしまう子どもたち』
- 『三つ編み』
- 『アンパンマンの遺書』
- 『思い出が消えないうちに』
- 『流星と吐き気』



学生が作成した
ポップも必見です！



企画展示

図書館2階閲覧室では年に2回、企画展示を行っています。

前期は「原典コレクション紹介展」として、当館が所蔵する18世紀のスコットランド・イングランド啓蒙の関連書籍を中心に、普段公開していない貴重な資料を展示了しました。

後期は「文学賞の世界」をテーマに芥川賞・直木賞・ノーベル文学賞・本屋大賞の受賞作や受賞作家の作品を展示しています。12月末までの展示予定でしたが、好評につき期間を延長しました。



企画展示や開館予定などの詳細は、図書館HPをご確認ください。

■図書館HP (<https://www.cku.ac.jp/lib/>)



『モモ』 ミヒヤエル・エンデ著

(経済学科 末村正代 専任講師)

ドイツの作家、ミヒヤエル・エンデのベストセラー、『モモ』（一九七三年）を紹介します。児童文学史上の名作で、岩波少年文庫の一冊でもあるので、読んだことがある人もいるかもしれません。ですが、繰り返し読んでも、大人が読んでも、拾い読みしても、どんなふうに読んでも良い本だと思うので、選びました。

この本のテーマは「時間」です。家族も家もお金も何もなく、貧相な身なりの少女モモが、世界から「時間」を盗んだ灰色の男たちに立ち向かい、「時間」を取り戻すストーリーです。知つてはいるようでも知らない時間の世界、その不思議を旅するような物語です。何だかいつも時間が足りなくて、ずっと忙しくしている。私もよくそう感じますし、現代では共感してくれる人も多い気がしますが、時折ふと「本当に忙しいのかな」、「本当に時間がないのだろうか」、「時間について何か勘違いしているかもしれない」と思います。灰色の男たちに時間をこつそり盗まれているような、何とも言えない気持ちになります。

「時は金なり」と言いますが、この本では「時は花」です。たしかに時間は、お金と同じように計画的に活用すべきものですが、花が咲くように瞬間のうちにすべてが満たされ完結するような一面もあわせもっています。個人的には、作中の床屋・フージー氏のように、一日を豊かに過ごしたいものだなどと考えながら（灰色の男たちに全否定されますが）、楽しく読んでいます。



『モモ』 ミヒヤエル・エンデ著
岩波書店
2階児童書 J943/E59

先生が選んだおすすめの一冊

学生が選んだおすすめの一冊



『日本人拉致』蓮池薰著
岩波書店
2階新書 391.61/H39

『日本人拉致』

蓮池薰著

(経営学科 四年 村持佑一)

今年、北朝鮮による日本人拉致問題に動き——トランプ米大統領と拉致被害者家族の面会・高市首相による日朝首脳会談打診の公表など——があった。しかし、過去二回行われた日朝首脳会談の際に、拉致被害者五人・その家族八人が帰国を果たして以来、現在までの約二十五年間、具体的な進展は無い状況だ。

現在、政府認定の拉致被害者は、十二人いるが（帰国者を除く）、そこに、拉致の可能性を排除できない「特定失踪者」を含めると九百人以上にのぼる可能性もある。

本書は、拉致被害者であり、日朝首脳会談の際に帰国を果たした、蓮池薰さんが、二十四年間に及ぶ北朝鮮での生活の実態や日本人拉致の目的、そして、進展が無い拉致問題の本質について迫ったものである。本書には、今まで公表を控えていた、北朝鮮で見聞きした事実が数多く著されている。

蓮池さんが「人生の集大成」と位置付ける本書。読者は、罪の無い人々が、身勝手な国家の「ご都合」によって、突然異国の地に連れてこられ、自由を奪われた挙句、何十年経つても、一部の被害者以外は祖国に帰国出来ないという、他に類を見ない人権蹂躪の実態を知るであろう。ぜひ一読されたい。

私が“懐かしの一冊”としておすすめしたいのは、あんびるやすこさんの『ルルとララのチョコレート』です。

（経済学科 三年 依田花凜）

小学生のころ、図書室の棚にいつも並んでいて、手に取るだけでワクワクした思い出があります。ページをめくると、ふたりが作る甘いチョコレートの香りが漂ってくるようで、読みながら「こんなのが作ってみたい！」と胸が高鳴った人も多いのではないでしょく。

物語はとてもやさしく、トラブルが起きて必ずあたたかく解決していく世界観に、子どものころの自分はほつと安心していました。今読み返してみると、その“やさしさ”こそがこの本の魅力だったんだと気づきます。忙しい大学生活の中で、当たり前だけど大切なことをふつと思い出させてくれるよう、そんな力のある作品です。

あの頃のドキドキやワクワク、そして教室にあつた図書室の香りまでよみがえってくるような一冊。「ちょっと疲れたな」と思つた時に手に取ると、子ども時代の純粋な気持ちに戻れる、特別な本です。ぜひ、懐かしい気持ちと一緒にもう一度読んでみてください。



『ルルとララのチョコレート』
あんびるやすこ著
岩崎書店
2階ブックツアーハウス J913.6/A46



電子書籍を読んでみよう！

学生の皆さんは Maruzen eBook Library(電子書籍サービス)を利用したことがありますか？

学内ではログイン不要で利用できるほか、一度学内で登録すれば学校の外でも電子書籍が利用できます。

就活関連図書や一般教養図書、岩波新書などをいつでも読むことができ、規約内での印刷も可能です。



1. 学内設置のPCや学内Wi-Fiに接続したスマートフォン・PCで電子書籍サービスにアクセスする



PC : <https://x.gd/VQ78d> を入力 or



スマートフォン : 右記のQRコードを読み込む

2. 画面上部のアカウントをクリックする

3. 画面に従ってメールアドレス等を登録する

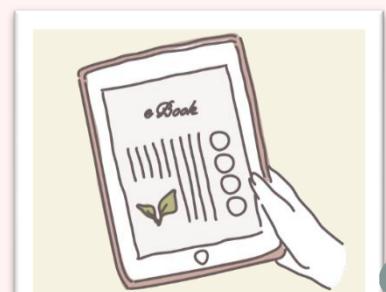
注意！必ず学校のメールアドレス(@cku.ac.jp / @chiba-kc.ac.jp)を登録してください。Gmail等は登録できません

4. 登録したメールアドレスに丸善からメールが届くため、メール内にあるURLをクリックしパスワードを登録する

登録完了



電子書籍 URL
Maruzen eBook Library



学校の外で電子書籍を利用するときは 1.のように電子書籍の画面を開いて、以下を入力する

認証ID：メールアドレス

パスワード：自分が設定したパスワード

ぜひご利用ください！

